今日のイラスト 433　「 イラストでたどる萩往還㉕ 十朋亭」　　古谷眞之助

イラストでたどる 萩往還 25 十朋亭

十朋亭は、竪小路で醸造業を営んだ豪商・萬代家の離れとして享保年間に建てられたものである。文久三年、萩藩は、幕府との雲行きが怪しくなり、外国船からの砲撃の危険性が高まってきた為、地理的中心である山口に政治の中枢を移す方が有利と考えてこれを実行した。いわゆる「山口移鎮」である。しかし、当時の山口は萩の約二割規模の町で、武家屋敷移設は遅々として進まず、代わって利用されたのが豪商の別邸だった。萬代家も例に漏れず、桂、高杉、久坂らが度々利用した。英国から急遽帰国した伊藤と井上も、まずはここで藩情勢を見極めたという。現在十朋亭は「十朋亭維新館」として整備されており、幕末ファン必見の施設の一つである。

文・イラスト＝古谷眞之助

今年 2 月からミニコミ誌の掲載方式が変更になって、これまでのほぼ四角の記事が、横長の記事になった。説明文の字数には変更はないのだが、お気づきだっただろうか。その字数というのがざっと 300 字である。友人からは「長文・眞之助」と言われているくらいに、ついつい長文を書く癖がある。あれも書いておかねば、これも書いておかねば、と思ってしまうからである。中学の時の尊敬する国語の先生は、短く簡潔で、主旨をしっかり伝えられる文章が良い文章、と言われていたのを思い出すが、その後の読書傾向の影響もあるのだろう、長文は一向に苦にならなくなっている。そのため短く切り詰めるのに苦労している。

さて、十朋亭は萩往還語り部として以前から注目していた施設である。明治維新 150 年の平成 30 年（2018）に、萬代家から土地建物その他を寄贈された山口市が、旧建物などを維持しながら、立派な施設を併設してリニューアルしたのが「十朋亭維新館」である。山口市内の幕末を色濃く残すところの一つであり、重要なガイドポイントであると言える。2014 年には NHK、2020 年には地元ローカル TYS の取材依頼で、ここで 2 度解説をしたことがある。先日、録画した二つを、ある必要があって久し振りに観たのだが、話している内容はほぼ同じだった。ということは、6 年経過しても少しも進歩はないということになる。私のガイドネタも語り部としてのガイドを開始してから４、5 年後にはほぼ確立して、それ以降は新たなネタをほんの少しつぎ足しているだけということがよく分かった。大いに反省しなくてはならないし、もっともっと歴史の裏舞台を学び、多角的、立体的視点を持たねばと思っている。ガイドを始めたのが 2012 年３月で、そのガイド活動も今月４月で 150 回を越えた。萩往還そのもののガイド回数が 109 回、維新策源地ガイド、萩往還講演会などが 43 回で、外国人グループを萩往還にご案内したのも 13 回となった。平均すれば年 17 回程度だが、大河ドラマ「花燃ゆ」放送の 2015 年は倍の 39 回にも及んだ。引き続き、ここ十朋亭に集った志士たちの熱い思いを語り部として伝えていきたいと思っている。（2021.4.29 記）